

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2017年4月

第27回ISO/TC 138国際会議

1. TC 138の構成

TC 138 (プラスチック管・継手) は、日本が幹事国 (TC 議長及び幹事) となっている。(表 1) に構成を示す。TC138傘下には日本が幹事国を取るSC8を含め、8個のSCで構成されている。

(表 1) TC 138の構成

| セクション | 内容 | 幹事国 |
|--------|-----------------|--------|
| TC 138 | プラスチック管・継手 | 日本 |
| WG 8* | 管の基本寸法 | |
| SC 1 | 廃下水用プラスチック管・継手 | フランス |
| SC 2 | 給水用プラスチック管・継手 | スイス |
| SC 3 | 工業用プラスチック管・継手 | イタリア |
| SC 4 | ガス供給用プラスチック管・継手 | オランダ |
| SC 5 | 試験方法・基本規格 | オランダ |
| SC 6 | 強化プラスチック管・継手 | オーストリア |
| SC 7 | プラスチックバルブと補助器具 | イタリア |
| SC 8 | 配管更生 | 日本 |

* : TC 138 直轄のWG

SC1～SC4は管の用途別で区分されており、SC5は管に関する試験方法、SC6は強化プラスチックを材料とした管及び試験方法、SC7は管の周辺器具となっている。これらに対して、SC8は「配管更生」という特異のジャンルであるが、既存の流体輸送用配管をプラスチック管で更生する工法ということで、関係する国際規格の開発、維持管理を、TC138の業務に取り込んでいる。

2. TC 138の活動状況

各SCの活動状況の指標として、今までの規格発行数及びこの1年間の審議件数を(表 2)に示す。

(表 2) 規格数及び審議件数

| | 規格数1) | 審議件数2) |
|-------|-------|--------|
| WG 8* | 0 | 0 |
| SC 1 | 1 | 4 |
| SC 2 | 0 | 5 |
| SC 3 | 1 | 2 |
| SC 4 | 1 | 4 |
| SC 5 | 2 | 2 |

| | | |
|------|---|----|
| SC 6 | 3 | 13 |
| SC 7 | 0 | 1 |
| SC 8 | 0 | 12 |

1) 2016-12-31までの新規格発行数

2) 1年間(2016-01-01～12-31)の件数（定期見直しは除く）

2016年の審議件数はSC別ではSC6、SC8が10件以上で際立っているが、他は5件以下とやや活動が低調である。

日本が幹事国を務め注力しているSC8「配管更生」は、2016年の審議件数が12と、2015年の4件から大きく増加した。これは、2015年に予備提案された8件が、2016年はNWIP（新業務項目）として承認されことによる。また、本年も更に6件の予備提案があり、更なる活動が期待される。

2016年の第27回TC 138国際会議は、18年ぶりに日本がホスト国となり、京都で開催した。

3. 第27回TC 138国際会議の概要

第27回ISO/TC138国際会議は、10月17日～21日の5日間にわたり、京都の積水化学工業㈱の京都研究所で開催された。参加者は29カ国109名（海外：76名 国内：33名）で、非欧州開催では例年海外からの参加者60名弱であるが、これを上回る多数の海外からの参加があった。

会議は、8つのSCのうち7つのSCとその傘下のWGのうち10個のWGが会議を開催し、開発中の規格、2016年定期見直し規格、新規提案について討議が繰り広げられた。そのうち、SC3（工業用プラスチック管・継手）の総会では、かねてより日本提案を行っていた耐圧ポリエチレン管に関する国際標準化に関し、「工業用プラスチック管システムーガラス繊維強化ポリエチレン（PE-GF）」ISO/PWI 22101 シリーズについて、時吉充亮氏がプロジェクトリーダーとなり、規格開発を進めることが承認された。SC8（配管更生）総会では、PWI提案された「廃水用配管の組立管による更生工法」ISO/PWI 11296-9について、金田洋佳氏をプロジェクトリーダーとして規格開発を進めることが承認された。SC会議終了後、AG（諮問グループ）会議が開催され、最終日には、TC138の総会が開催され、各SCからの会議報告とTC138が抱える問題を討議した。そこで、TC61（プラスチック）のスコープにプラスチックの接合を加える提案があることに対し、TC138の、流体輸送用プラスチック管、継手の接合についてはTC61スコープ改訂案から除くことをTC61に申し入れる事を審議し、承認された。その後、本申し入れは、TC61のスコープ改訂案に反映されることとなった。

4. 今後の取り組み

2017年1月に、国内TC138委員会が開催され、今回のTC138国際会議の報告をすると共に、日本提案について今後の日本の対応を議論した。

SC3（工業用プラスチック管・継手）の日本提案、ISO/PWI 22101 シリーズは、来年度初めにNWIP提案を行うこととした。

SC8（配管更生）日本提案のISO/PWI 11296-9については、次回の国際会議でのNWIP提案をめざし取り進めることとした。

次回2017年の第28回ISO/TC138国際会議は、スイスのゾルトゥルンでの開催が予定されている。